



令和5年度

## 太田小だより 7月号

## 【学校教育目標】

「自他を大切にして主体的に学び、生きる力をはぐくむ児童の育成」  
 ～やさしく かしく たくましく みんなで伸び行く太田小～  
 ○思いやりのある子 ○すすんで学ぶ子 ○たくましい子

さいたま市立太田小学校  
 令和5年6月23日（金）発行  
 全校児童数579人



住所 さいたま市岩槻区仲町 1-17-3  
 電話 048-756-0515  
 FAX 048-758-7487  
 メール ota-e@saitama-city.ed.jp  
 Web https://ota-e.saitama-city.ed.jp



## 1 学期末を迎えて

校長 田波 巨士

梅雨の時期となり、蒸し暑い日が続いています。湿度が高くじめじめするのは嫌ですが、この時期に雨が降らないと農作物等の生育・収穫に影響があることも事実です。「恵みの雨」とも言いますから、気持ちを切り替えて梅雨明けを待つことにしましょう。

早いもので、新学期から3か月程が過ぎ、1学期のまとめの時期を迎えます。一人ひとりが日々の学校生活を重ねるごとに成長していく様子を見て、大変頼もしく感じています。運動会をはじめ校外学習等、様々な行事も保護者・地域の方の温かいまなざしに守られて無事終わりました。「運動会とっても良かったです」「子どもたちが頑張っている姿に感動しました」「子どもたちが元気よく挨拶してくれました」など、嬉しい言葉も保護者・地域の方々に聞かせていただきました。心のつながりや思いやりの心を、皆さんとの関わりの中で子どもたちが培っていくのだということを改めて実感しました。

さて、6/13（火）、岩槻中、岩槻小とともに3校で合同の学校運営協議会を実施しました。また、同月上旬には、図書ボランティア全体会、スクールサポートネットワーク（SSN）協議会を実施しました。太田小学校として、より効果のある教育活動の実践を目指し、コミュニティ・スクールを推進していきたいと考えています。学校運営協議会では、「地域の教育力をどのように学校教育に生かしていくことができるか、地域とのつながり」をテーマに熟議しました。「子どもたちに地域の行事に興味をもってもらいたい」「子どもたちが主体的に企画運営できるような取組はできるだろうか」「学校で行っている活動を地域に広めてみてはどうか」など様々な話題が出ました。熟議で出た内容については、具体的に運営に向けて検討し、地域の皆様のお力添えをいただきながら実現していきたいと考えています。

会終了後でしたが、岩槻にゆかりのある人物として、**太田道灌（おおた どうかん）**が話題に上がりました（本校のキャラクターである「おおた（どうか）ん」のデザインのもとになったそうです）。諸説ありますが、太田道灌は室町時代末期の武将で、江戸城、**岩槻城**、川越城を築き、各地の乱を平定、また、和歌にも優れ、**文武両道の名将**として知れ渡っています。**岩槻城址公園**は、**岩槻城の跡地として整地された公園**です。太田小学校の校章は**太田家の家紋であるキキョウ**を由来としているそうです。

太田道灌に係る逸話として、次のような話があります。「ある日のこと、道灌は鷹狩りに出かけてにわか雨にあってしまい、みずぼらしい家に駆け込みました。道灌が『急な雨にあってしまった。**蓑（みの）を貸してもらえぬか。**』と声をかけると、思いもよらず年端もいかぬ少女が出てきました。そしてその少女が黙ってさしだしたのは、**蓑ではなく山吹の花一輪**でした。花の意味がわからぬ道灌は『花が欲しいのではない。』と怒り、雨の中をずぶぬれになって帰っていききました。その夜、道灌がこのことを腹立たし気に語ると、家臣の一人が進み出て、「後拾遺集の和歌に『**七重八重花は咲けども山吹の実のひとつだになきそかなしき**』という歌があります。意味は、『**七重八重に（あでやかに）花は咲くけれども、山吹には実の一つさえもないのがふしぎなことです**』ですが、その娘は、（**山間（やまあい）の茅葺き（かやぶき）の家**であり貧しく**蓑（実の）ひとつ持ち合わせがない**）ことをお詫びしたかったのではないのでしょうか。」と言いました。驚いた道灌は娘の言いたかったことを理解できなかった己の教養の無さを恥じ、この日を境にして歌道に精進するようになったと言われています。これが「**山吹の里**」伝説と伝えられている話です。ちなみに、**岩槻区のイメージカラーが山吹色**なのは、このお話がもとになっているからだそうです。

色々調べてみると太田道灌という人物に興味がわいてきました。そしてさらに、岩槻の歴史、史跡や産業・商業等についても詳しく知りたくなりました。自分が住んでいる、生活している地域に興味関心をもち、「なるほど」「もっと知りたい」など気持ちを大切にしながら、地域の皆様の力を借りながら課題解決につなげていく・・・そういった生きた学びを子どもたちにも味わわせたいと考えています。



（高田馬場駅前の壁画から）